

総合診療

科目責任者 志水太郎

学年・学期 4学年・前期

I. 前文

総合診療は、地域の人々が肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも満足した生活を営むことができるような、地域と医療システムの継続的な連携に基づく医療の実践、教育と研究を行う分野である。そのカバーする領域は超急性期の医療から慢性期の医療まで、また病院から在宅まで幅広い。医学的観点からも、多臓器の有機的な連関を考慮すべき病態を抱える、また独立した病状を複数抱える一個人のケアは、俯瞰的・包括的な視点を持った臨床思考が必要になる。高齢化社会を迎え、このような多様性・多面性に富んだ医学的ケアを含む医療を実践・教育・研究できる総合診療の能力はどの医師にも基本的能力として少なからず必要になる。本講義では、本邦における総合診療の重要性とその概念を習得・現場で実行するために必要な基礎を習得する。

II. 担当教員

志水太郎
原田侑典
廣澤孝信
森永康平
水澤桂
勝倉真一
鈴木有太
齋藤登
榎原剛
月永洋介

III. 一般学習目標

- ・総合診療における基本的事項（役割、セッティング）を理解する
- ・症候論に基づく診断の考え方を理解する
- ・病歴・身体所見の技術をどのように実際の現場で活かすかの原則を理解する
- ・患者の各状況における継続的ケアを行う上での重要事項を理解する
- ・医療全体の経済効果を意識した医療行動を理解する

IV. 学修の到達目標

- ・総合診療における基本的事項（役割、セッティング）を説明できる
- ・症候論に基づく診断の考え方を説明でき、実行に移すことができる
- ・病歴・身体所見の技術をどのように実際の現場で活かすかの原則を説明でき、実行に移すことができる
- ・患者の各状況における継続的ケアを行う上での重要事項を説明でき、実行に移すことができる・医療全体の経済効果を意識した医療行動を説明でき、実行に移すことができる

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

(1:反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2:ディスカッション 3:グループワーク 4:実習 5:プレゼンテーション 6:その他)

総合診療

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	6	9	水	3	病歴フィジカルと外来診療	森 永 康 平	1
2		9	水	4	地域包括ケアと診療連携	鈴 木 有 大	1
3		11	金	4	僻地医療と医師の分布	廣 澤 孝 信	1
4		16	水	4	老年者のケア	原 田 侑 典	1
5		21	月	3	カルテ記載とプレゼンテーション	水 澤 桂	1
6		21	月	4	患者中心の医療	榎 原 剛	1
7	7	1	木	4	在宅医療	月 永 洋 介	1
8		5	月	4	周術期ケアと外科との協働	齋 藤 登	1
9		5	月	5	EBMとHigh Value Care	勝 倉 真 一	1
10		8	木	4	診断思考	志 水 太 郎	1

VI. 評価基準(成績評価の方法・基準)

テストおよび授業での評価を加味して評価する。

定期試験(50%), ミニテスト・出席状況(40%), 態度(10%)。

VII. 教科書・参考書・AV資料

診断学/診断推論

- ・診断戦略(医学書院, 2014)
- ・Learning Clinical Reasoning(Lippincott, 2014)
- ・How Doctors Think(Mariner Books, 2008)

身体診察

- ・Textbook of physical diagnosis: History and examination(Saunders, 2014)
- ・Evidence Based physical diagnosis(Saunders, 2012)

他

- ・Cecil Medicine(Elsevier, 2012)

他, 適宜講義資料

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

四
学
年

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験は合否判定で到達度を評価します。

実習ではベッドサイドでの解釈やプレゼンテーション，マナーを重視し，その場で振り返ります。

X. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

課題図書及び，これまで習った医学知識を復習すること。（所要時間の目安20分）

XI. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載済み。